

令和の年金広報コンテストについて (今年度の結果・来年度の方向性)

令和4年度の結果について

■ ポスター部門

応募件数 **121**件 (小・中学生の部48件、一般(高校生以上)の部73件)

応募者の年齢層	人数	
10代 (10歳未満含む)	小・中学生	48
	一般	33
20代	30	
30代	2	
40代	1	
50代	4	
60代以上	2	
その他(法人など)	1	

(参考) 前回の応募件数 135件

応募者の年齢層	人数
10代(10歳未満含む)	67
20代	35
30代	6
40代	13
50代	2
60代以上	6
その他(法人など)	6

■ 動画部門

応募件数 **10**件

応募者の年齢層	人数
10代	1
20代	7
30代	1
40代	1
50代	0
60代以上	0

(参考) 前回の応募件数 22件

応募者の年齢層	人数
10代	1
20代	18
30代	0
40代	3
50代	0
60代以上	0

令和4年度の結果について

■ ポスター部門 (小・中学生の部)



厚生労働大臣賞



年金局長賞



日本年金機構理事長賞



佳作



佳作



佳作

第4回コンテスト表彰式



■ ポスター部門 (一般 (高校生以上) の部)



厚生労働大臣賞



年金局長賞



日本年金機構理事長賞



企業年金連合会理事長賞



国民年金基金連合会理事長賞



佳作



佳作



佳作

■ 動画部門



厚生労働大臣賞



年金局長賞



年金シニアプラン総合研究機構理事長賞

【課題】

前回コンテストと比べ、ポスター部門・動画部門ともに応募件数が減少

⇒ 第5回コンテストに向け、応募件数を増やすための対応が必要

■ 第4回コンテストの振り返り

- ・ 応募者の属性に着目すると、専門学校などで美術やデザインを学んでいる方からの応募が目立つ。
- ・ 応募者や受賞者の所属団体などが固定化されつつある。
- ・ 応募者からのアンケート回答において「学校でポスター募集の紙を見て」「学校での夏休み課題」など、学内での周知や夏休みの課題をきっかけに応募したケースが確認された。
- ・ 「ポスター」部門という名称が、制作に手間がかかる印象を持たせ、応募のハードルになっている可能性がある。
- ・ 動画部門では、手の込んだ長い作品が求められていると考え、応募に至っていない層が一定数存在すると思われる。

■ 第5回コンテストに向けた対応案

- ・ 美術・デザイン・動画の専門課程を有する大学、専門学校や高等学校などへの周知を強化する。
- ・ 年金対話集会で構築された先生とのネットワークを活用して、コンテストを周知する。
- ・ 学校における周知活動を容易にするため、第4回受賞作品のデザインを入れた案内ポスターを各学校に送付する。
- ・ 学校における生徒への周知期間を十分に確保するため、告知開始日を前倒しする。
- ・ 応募のハードルを下げるため、「ポスター部門」を「ポスター・静止画部門」と改称する。
- ・ 容易に作品を応募する手段を提供するため、動画編集が手軽にできるInstagram等を活用し応募を促す。